営業部生産課より

「来年のことをいうと鬼が笑う」とか「百姓の来年」とかいう言葉が古くからある。良いにせよ悪いにせよ将来の見通しというものが極めて困難なものであることをさす言葉のようである。特に主として自然を相手とする農業の場合はこの例からはずれることができない。そこで、たとえ今年は悪くとも来年こそはと期待して農民は精を出すのであって、農業経営は危険きわまりないといえばそれまでであるが、私はそうは考えない、冷害、凶作、あるいは旱害、台風、洪水等大きな被害を受けても「来年こそは」とファイトをもやしてこれに立ち向かって行けることのできる仕事であるし、そうした農民の姿には崇高なものさえあると考えている。

さてわが社の本年度種子生産の状況を概観すると、まさにこの「来年こそは」の言葉を吐かねばならない年のようである、即ち七月末から八月上中旬、丁度北海道の夏収作物の収穫期に襲来した九号、十号の両台風は史上かつてない長期豪雨を伴い道内各地に大洪水を見るに至り、八月中の晴天日は僅か数日に過ぎず、日照時間は極端に不足したことがその原因であって、当時は全く手の施しようもなかったものである。

勿論この台風の直前に収穫されていたものもあり、たまたま成熟乃至は収穫の時期と長雨期とが一致したもの等もあって、作物によってはまことに区々であるが、主なものについて見ると凡そ次のようなことになったと言えよう。

牧草飼料作物種子について

○オーチャードグラス　春以来生育は順調で特に開花期（六月中旬）の天候が良かったので充実程度も良く、しかも豪雨前に殆ど刈取られていたが、脱粒調整の時期が降雨期に遭遇したため集荷が遅れ随分苦労したが、計画を上廻った数量が確保できた。但し雪印改良オーチャードの採種地帯が昨年、今年と引続いての出水地であったため予定量を下廻ったことは遺憾であった。

○チモシー　オーチャードと同様七月末迄の生育は良かったが、晩生なので刈取時期と長雨が一致したため圃場での自然脱落が多く、加えて採種地帯が出水被害地に多いこと等悪条件が重なって計画の二～三割程度より採種されないが、幸い輸入手配もできるので、需要者各位には不測の迷惑をかけることはないと考えている。なお雪印改良チモシーも計画の三割程度より生産が見込まれないことは残念である。

○レッドトップ　オーチャード同様計画量の確保ができたし、品質も例年より良かった。

○家畜ビート　生産課が最も重点を指向して採種指導をしてきた作物であって近年著しく採種技術が向上したことと採種地帯の条件が良いこと更に家畜ビートが比較的降雨に強い性質もあって一部冠水流失したものを除けば良質なものが計画量を上廻って生産集荷出来たことは幸いである。

○雪印改良紫カブ　わが社の道産種子で今夏の台風の被害を全く受けなかった唯一のものである。それは七月末迄に収穫調整が全く終わっていたからであって良質なものを計画通り生産されたことは勿論である。

○ルタバガ　昨年に続いて越冬が充分でなくせっかくのステックリングの方法も不成績で更にカブ類よりも収穫期が遅いため収穫中に雨害を受け生産は少なかった、不足分は輸入品を利用するので種子の供給には支障がないと思う。

○青刈燕麦類　太豊、豊葉、雪印改良一〇一号等いずれも収穫期に連続降雨に遭遇して全く筆舌に尽し難い困難を伴ったが、採種農家の献身的努力により七分作程度は確保された。ビクトリーも不足気味であったが、前進の絶対量が多いので最終的には需要を満たすことは出来たが、今年の燕麦種子は雨害を受けないものはなく色沢は劣ったが発芽力には全く影響がないので安心して使ってもらえたと考えている。

○青刈ライ麦類　改良ライ麦、四倍体ライ麦、在来ライ麦共に刈取乾燥中に長期豪雨に遭って穂発芽したものを生じ、収量は半減したものも出て全体としてかなり品不足を生じ品質も低下した。種子需要者各位に大きな迷惑をかけたことは誠に申訳ない。

○サットンスペシール、ポンキン、ひまわリ、青刈大豆類　いずれも今収穫直前の状態であるが、日照不足が災いして種子生産量は計画の七～八割に止まる公算が多い。

園芸種子について

○ホーレン草　七月中旬における道内ホーレン草採種圃の作況は数年来にない出来であった。恐らく平年の三割増は間違いなかったであろう。それが収穫乾燥期の豪雨でペシャンコにたたかれた。特にホーレン草は河川流域の土壌条件の良い所に作場が多いだけに水害の被害が大きく、地帯あるいは農家によって大きな差が出たが、結果的には平年作の八～九分作程度に止まったことは不幸中の幸いであった。

○豌豆類　今夏の長期豪雨の被害を受けたものの中で最悪のものは豌豆であろう。洪水の被害というよりは長雨の被害で、収穫直前の種子が殆ど莢の中で発芽乃至は腐敗した。棄ててしまった者も多く、せっかく作ったものであるからと脱粒はしたものの、六〇キロ一俵の中で良い種子が五～六キロというようなものもあった。会社では来年用の原種を確保したほか、僅かではあるが販売用に供する種子が出来たことは望外の幸いであった。

○チシャ　豌豆同様収穫皆無に近い。

○人参、牛蒡　先ず半作程度であろう。人参種子は輸入品にまたねばならぬが牛蒡は府県産が良いので供給には支障がない。

○菜豆類、枝豆類　日照不足で平年の八分作程度であろう。初霜（札幌で十月四日）が昨年より早かったが殆ど成熟していたので大した問題はないと思う。

（ありさわ）